

船が育んだ江戸

～百万都市・江戸を築いた水運～

(3) 船 —船・舟・船番所—



「富嶽三十六景 常州牛堀」
(千葉県立関宿城博物館 所蔵)

企画展示 無料一般公開

2019年 11月21日(木) ~ 2020年 2月15日(土)

会場

東京海洋大学 越中島キャンパス
明治丸記念館

開館
日時

毎週火・木曜日、第1及び第3土曜日
10:00~15:00(入館は14:30まで)
※2020年1月18日(土)休館、1月25日(土)開館

講演会「船が育んだ江戸」
(3) 「船」—船・舟・船番所—

事前申込
不要

日時 2019年12月7日(土) 13:00~15:30

会場 東京海洋大学越中島会館 2階講堂

詳細は裏面をご覧ください

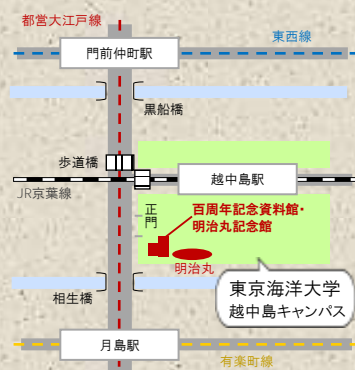
主催：東京海洋大学附属図書館
共催：東京海洋大学
明治丸海事ミュージアム
後援：一般財団法人 山縣記念財団
協力：浦安市
浦安市郷土博物館
江東区中川船番所資料館
国文学研究資料館
中山幸雄
ほか多数(敬称略)

◆お問い合わせ

東京海洋大学附属図書館 企画展示ワーキンググループ
〒135-8533 東京都江東区越中島2-1-6
電話：03-5245-7362
Email：exhibition-lib@m.kaiyodai.ac.jp
図書館HP：https://lib.s.kaiyodai.ac.jp/

◆交通案内

・JR京葉線/武蔵野線 越中島駅 徒歩2分
・地下鉄東西線/大江戸線 門前仲町駅 徒歩10分
・地下鉄有楽町線/大江戸線 月島駅 徒歩10分
明治丸記念館へは百周年記念資料館からお入りください



企画展示「船が育んだ江戸」 (3) 船 —船・舟・船番所—

■ 船の歴史と構造



和漢船用集 金沢兼光著 明和3年(1766)
(東京海洋大学附属図書館所蔵)
金沢兼光は、大坂の船匠(船大工)である。
「和漢船用集」は、和漢の船に関して記したもので、十二巻で構成されている。



萬祥廻船往來 十返舎一九著 文政6年(1823)
(東京海洋大学附属図書館所蔵)
十返舎一九は、江戸時代後期の戯作者であり、日本で初めて文章のみで著された「東海道中膝栗毛」の作者である。「萬祥廻船往來」は、日本における船の歴史、船舶の種類と用途、および各部の名称と機能・材質などについて記している。また、船の守護神である住吉大明神などについても記してある。

■ 江戸の海運を支えた船(菱垣廻船・樽廻船と小型船)



山海見立相撲上総木更津 複製
歌川廣重画 安政5年(1858)
歌川廣重は、江戸時代後期の浮世絵師で、代表作に「東海道五拾三次」、「名所江戸百景」などがある。「山海見立相撲上総木更津」では、中央に帆をおろして停泊している五大力船が描かれている。背景のまちは、木更津とされている。



第一武蔵湾 複製 酒井喜熙 安政2年(1855)
木版 38.0 × 60.0 cm (船橋市西図書館所蔵)
酒井喜熙は、水戸藩士で、9代藩主徳川齊昭に重用された。「第一武蔵湾」は、馬入川の河口付近から房総白浜付近までの範囲が描かれているとされている。この図には、船舶に対する常と考えられる船つなぎや沖掛りの様子などの説明が海面上の余白にある。また、主要港間の海上航路は朱線で引かれ距離が添えられている。

■ 利根川水系の水運—高瀬船とその操船—



海路安心録 坂部広胖著 文化13年(1816)
(東京海洋大学附属図書館所蔵)
坂部広胖は、江戸時代の和算家である。「海路安心録」は、江戸時代後期の航海技術書である。球面三角法を用いた天測航法の基本、安全航海の方法と心得、磁石の使い方等を記している。



小方儀
(東京海洋大学明治丸海事ミュージアム所蔵)
「小方儀」とは、伊能忠敬が簡単に方位を測る測量器具として開発した方位磁石である。別名、彎象羅鍼(わんからしん)、杖先方位盤とも称した。

■ 中川番所と小名木川の通行



船鑑札 明治7年(1874)
(東京海洋大学明治丸海事ミュージアム所蔵)
「船鑑札」とは、江戸時代において、浦役人が船の所属を定め、船籍を明らかにして、船主の監督・取締りのために発行した船籍証明書である。



船往來手形 文政11年(1828)
(東京海洋大学附属図書館所蔵)
「船往來手形」とは、江戸時代に船舶が諸国を往來するために、船頭が必ず所持しなければならない通行証明書のことである。実際に航海に際して船頭に下付される通行許可書に相当するものである。別名、船往來切手ともいわれている。

講演会「船が育んだ江戸」 (3) 船 —船・舟・船番所—

事前申込
不要

日時

2019年12月7日(土) 13:00~15:30

会場

東京海洋大学越中島会館 2階講堂

企画展示「船が育んだ江戸」では、水運の視点から百万都市江戸の誕生と成長の姿を追いかけています。第3回目となる本年のテーマは「船」です。講演会では、船の歴史と構造、江戸の海運を支えた船、河川水運と操船、船番所の役割について、4人の専門家の方に講演していただきます。

プログラム

司会: 岩坂直人(東京海洋大学教授)

- 12:30 開場
 - 13:00 開会挨拶: 塚本達郎(東京海洋大学附属図書館長)
 - 13:05 **講演 I 「船の歴史と構造」**
庄司邦昭(東京海洋大学名誉教授)
 - 13:35 **講演 II 「江戸の海運を支えた船」**
小堀信幸(船の科学館学芸部調査役)
 - 14:05 休憩
 - 14:20 **講演 III 「利根川水系の水運—高瀬船とその操船—」**
大貫伸(内外地図株式会社常務執行役員、元公益社団法人日本海難防止協会研究統括本部部长)
 - 14:50 **講演 IV 「中川番所と小名木川の通行」**
久染健夫(江東区中川船番所資料館職員)
 - 15:20 閉会挨拶: 庄司り(東京海洋大学ミュージアム機構長)
 - 15:30 閉会
- ※ 講演会終了後、17:00まで展示会場をご覧ください。
(講演内容は、変更することがあります)

案内図

正門から…明治丸のある広場へ向かい、そのまま道なりにまっすぐ進みます。小さなドームと赤い屋根が目印です。
越中島門から…門に入って正面の建物です。中へ入ってまっすぐ進むと受付があります。

